

## 実践

平成二十年度 坂本教育賞受賞校の取組み

### 「学力向上」と「健全育成」をめざして

いの町立伊野南小学校

校長 梶原正仁 学級数 十五学級 児童数 三三一人

伊野南小学校は、「学力向上」と「健全育成」を大きな柱とし、意欲的な実践活動により大きな成果をあげている。

学力向上対策としては、

- ・モジュール授業「いきいきタイム」の確立
- ・指導工夫改善に重点をおいた授業づくり
- ・子どもの困り感に寄り添い、その育ちと学びをたどる授業研究

- ・「一人一研究」による資質向上
- ・「九カ年を見通した児童生徒への指導—小中交流授業を通して—」を設定し、きめ細かな実践活動で学力向上を図っている。

また、地域ぐるみの学校安全安心への取組みとして、「家庭や地域の関係機関と連携し、火災・地震避難訓練、水害時の集団下校訓練の計画的実施」「PTA会員による

学校だより

角野栄子(童話作家)  
伊野南小学校大木サビット!

9月10日(月)童話作家角野栄子さんが伊野南小学校にいらして、お話の読み聞かせをしてくださいました。

お話の読み聞かせは、子どもたちにとって、とても楽しい時間です。

お話の読み聞かせは、子どもたちの心を豊かにしてくれます。

お話の読み聞かせは、子どもたちの想像力を育ててくれます。

お話の読み聞かせは、子どもたちの心を育ててくれます。



◎ 敬愛童話作家角野栄子さんの講話の様子。2010年9月10日NHK放送局で収録された講話の内容を詳しくご紹介いたします。(角野栄子先生より提供)

(ミニバト隊) 結成、休日に学校周辺のバトロール」

- ・「全学年対象の防犯教室の実施」「伊野南地区安全安心マップの作成」「スクールガードリーダーとの連携による登下校時の安全確保」等により生徒の安全確保を地元と一体となった取組みにより実現している。

また、読書意欲を高める取組み、その外、書写教育の向上、中学校との連携、幼稚園・保育園との連携など、多面的に意欲的な実践の中でそれぞれに教育効果をあげている。

その他、子ども達の自主活動の



活発化を図るなど、豊かな心を育む教育にも取り組んでいる。

これらの数々の研究指定事業を積極的に受け、校長を中心に教職員が地域と連携した取組みにより大きな成果をあげている。

(いの町教育委員会)

星 幸広先生 (徳大(納) 本校洗機管理指導)

# 学校だより

(No.16) 2008.9.11

伊野南小学校 (TEL: 574-114) FAX: 574-1144 文書 校長

(全校児童対象のお話) 「人々の心を癒し、救われたいしをいれた。」

<学校の取り組み> 〇見守り活動をいっしょに実施していき、〇先生が子どもと向きあ  
てバカバカと笑ってあげようとする

<公園や道路等> 〇一人芝居をやる 〇知字一人の声を叫びながら、絶対的につ  
いかわい 〇他人のフリートに付きあう 〇大声で出す(泣く) 〇逃げ 〇「おどろ  
おどろ」の言葉

<保護者一人ひとりの声にこたえよう> 〇参加者と話し、気持ちよく話を聞いてい  
〇「おどろ」をいっしょに実施する  
〇「おどろ」をいっしょに実施する  
〇「おどろ」をいっしょに実施する

## 伊野南小学校でのプール交流



7月10日(木)に八回保育  
園、あいの保育園の5歳児が  
6年と組のお兄さんやお姉さ  
んと南小学校のプールで交流  
させていただきました。はな  
組の子も連は「小学校のプ  
ールって深いよねえ。」足が  
つかんかったらどうしよう  
ですが、小学校に慣れてくると  
不安な気持ちもあつたよう  
ですが、小学校に慣れてくると  
不安な気持ちもあつたよう  
ですが、小学校に慣れてくると  
不安な気持ちもあつたよう



(体育館での体育授業の様子)

(4年、6年生が元気な声で応援する様子)

(JA伊野南グループは敷設「E90広場」8号 No.179号)とよく楽しく活動しました。

## 荒れ地を花の公園に

伊野南小、中  
児童生徒ら  
球根、種を植え付け



アマリシスの球根を植える伊野南小の1年生(いの町八田)

「土佐」西川郡いの  
町八田の伊野南小、中  
学校の児童生徒と保護  
者ら、学校近くの荒  
れ地を花いっぱい公園  
にしようとする計画を  
進めている。十一種類  
の球根や種を植えてい  
る同小の児童らは「ど  
んな色の花が咲くのか  
楽しみ」と、手作りの  
公園の完成を心待ちに  
している。

同小の南に隣接する  
荒れ地は国有地で、十  
五年には公園化する  
計画だ。

今年十二月からは同  
小の児童が、スコップ  
を使ってアマリシスや  
ヒマワリ、ガゼニアな  
どの球根や種を植え付  
け、児童生徒と保護者  
が、交代で水やりなど  
の世話をしている。

同小の青木美穂(みほ)先生は「花を植えることを通じて豊かな人間性を育てたい」と、児童が地域と児童らの交流の場にもなっている。

(2008.5.16(金) 高松新聞)

## 自己表現力を育てる教育実践

高知市立江ノ口小学校

校長 西川淳一 学級数 十四学級 児童数 二八一人

江ノ口小学校は高知市の中心市街地に位置する開校一三五  
年目を迎えた歴史ある学校である。平成十八年度から「自分  
の考えを豊かに表現する力を育てる」との研究主題を設定し、  
国語科の研究に力を注ぎ、子ども们的思考力や表現力を養い、  
さらには周りの人々との人間関係を深め、自尊感情や自己肯  
定感の育成を目指した取組みを進めてきた。



「新聞を読み取っている様子」

また、三年前からはNIEの実践校として新聞を活用した  
教育実践を行ない、国語力の  
一層の伸長をめざし、各学年  
で指導計画を立てた新聞づく  
りを行い、お互いが新聞感想  
文を投稿する活動を行い大き  
な成果をあげている。  
その成果として、高知新聞  
社主催「夏休み学習旅行招待」  
作文の部において四名入賞、

また「第五回新聞感想文コンク  
ール」小学生の部において優秀賞  
を受賞している。

平成十六年からの二年間は  
「文部科学省学力向上支援事業」  
の研究指定校、平成十八年から  
二年間は、県教委の「教えの喜  
び」伝承モデル事業推進校とな  
り、授業改善・言語表現の向上  
に取組み大きな成果をあげた。

特に、始業前の時間を活用して全校児童が作文に取組む  
「江ノ口タイム」と、毎月定期的に行なっている「わくわく  
集会」（発達段階にあわせた題材の音読や暗唱）は全校あげ  
ての活動であり、児童の言語活動を活性化するための優れた  
実践である。

また、人権教育においては「平和学習」「夏休み平和学習」  
「講演」「体験活動」等により児童の心に響く取組みを行って  
いる。

「開かれた学校づくり」の発案で、青少協とPTAが「江  
ノ口まつり」を開催し、地域のイベントとして定着しており、  
地域の振興にも貢献している。



新聞記事をもとにした発表

（高知市教育委員会）

## 学力定着に向けた教育実践

四万十市立中村小学校

校長 田中智 学級数 十三学級 生徒数二八六八

中村小学校は、明治五年に開校し一三六年の歴史を持つ幡多地区の中心校である。昭和五十七年には生徒増加に対応するため、中村南小学校を分離開校したが、市内においては義務教育の拠点校として重要な役割を担っており、地域住民の本校に対する期待は大なるものがある。教職員も期待に応えるべく日夜研鑽に励み、子どもたちのために献身的に勤務に励み素晴らしい学校づくりを行なっている。



見せ合いコーナーで考えを述べあう

平成十五年度には、「学力向上指定事業指定校」を受け、以前から研究してきた指導形態の工夫に継続し取組んだ。その中で、T・T・学級分割・少人数指導・習熟度別授業などは児童や保護者の支持を得ており、基礎学力の定着に成



研究授業 目をかけ声をかけ心かけ

果をあげている。

平成十七年度からは「学力向上拠点形成事業指定校」（三年間）を受け、研究テーマを「確かな学力を確実に定着させるための指導方法の工夫」として更なる向上を目指し研究に取組んでいる。初年度は、三つの力「表現力、交流する力、自己評価力」の育成に力を注ぎ、学習

集団の基礎である学級づくりに取組んだ。二年目は、初年度の取組みを焦点化しながら更なるレベルアップを図る研究を進め、マスターリー・ラーニング（指導と評価の一体化）、授業力の向上に意欲的に取組んだ。三年目は二年間の研究から課題として見えてきた、特別な支援が必要と考えられる子どもたちに学力を付ける具体的な手立てとして、一人一人の学習の課題を明確にしたカルテを作成し、情報の共有を図り、授業中や放課後の加力学習等に活かしてきた。

さらに平成二十年度は「学力改善推進モデル事業」の指定を受け、研究を発展させるとともにその成果を他校にも公表し、周辺校への波及効果も大きいものがある。

（四万十市教育委員会）